

今後のDG3における主要な論点、 ディスカッション

2026年9月



ディスカッションにあたって

- ディスカッションにあたり、DG3の射程となるテーマについて、**欧州と英国の動向とこれまでのフォーラムでの議論を比較**のうえ、**今後DG3で取り扱う論点を整理**。

WG1 : CBDCシステムと外部インフラ・システム等との接続

WG3 : KYCとユーザー認証・認可

WG5 : ユーザーデバイスとUI/UX

WG7 : 基本機能の事務フロー

WG2 : 追加サービスとCBDCエコシステム

WG6 : 他の決済手段との水平的共存

CBDCアーキテクチャー に関するDG

- ・CBDCの特性
- ・仲介機関の役割・業務
- ・KYC、認証認可
- ・Wallet関連技術
- ・オフライン決済
- ・プライバシー・個人情報保護
- ・顧客管理システム
- ・勘定系接続
- ・他の民間マネーとの交換
- ・レジリエンス

CBDCエコシステム に関するDG

- ・ユニバーサルアクセス
- ・協調領域と競争領域
- ・データ利活用
- ・既存の決済手段との共存
- ・AML/CFT検討
- ・社会実装までのタスク整理
- ・クロスボーダー利用

新たなテクノロジーに関するDG

- ・ステーブルコイン
- ・トークン化預金
- ・DLT関連技術
- ・アセットトークナイゼーション
- ・プログラマビリティ

WG4 : 新たなテクノロジーとCBDC

欧州・英国の動向と日本での議論の状況①

- 各国・地域とも、実験用プラットフォームを用いつつ、幅広いユースケースを検討。
- 仕様の標準化（協調領域）は、欧州がルールブックにより広く規定する一方、英国デジタルポンドは標準化議論は進展しているものの、足元は技術・制度設計の検討段階。日本でも、追加サービスの品質保証等含む標準化の重要性や、標準化のための中立機関の必要性が指摘されている。

	欧州	英国	日本（フォーラムでの議論※）
ユースケース・プログラマビリティ	・ユースケースとして、店舗決済、EC、P2P決済、G2P・P2G決済を想定。 ・プログラマブルペイメントを認め、プログラマブルマネーは不採用。 ・エスクロー、Request to payも想定。 ・イノベーションプラットフォームを運営。 ・信頼性（可用性・復旧目標、計画メンテ）、パフォーマンス（レスポンス）、ユーザーサポートも規定。	・欧州同様、幅広いユースケースを想定。プログラマブルペイメント・マネーに対する考え方も同じ。 ・デジタルポンドラボでユースケース開発。	・欧州・英国と同様に、幅広いユースケースを想定。プログラマブルペイメント・マネーへの考え方も同じ。 ・APISBでユースケースを検討。 ・CBDCの信用確保のため、追加サービスの品質保証が重要。 ・公的機関含め、追加サービス基盤の改善継続に必要な人的・金銭的リソースを確保する必要。
仕様の標準化（協調領域）	・UI、API、セキュリティ、利用規約、ブランドを含む共通ルールを制定 (Participant Rules, Technical Standards, UX Guidelines) ・標準化は各団体と協業。 —ECB(全体設計),ERP(市場調整),ETSI(セキュリティ、通信規格)。	・設計原則、API、相互運用性を重視。 ・民間競争による多様なUXを志向。 ・銀行・Fintech等含むRPIBで仕様設計等を検討。	・仲介機関・追加サービスのセキュリティ・技術レベルの一定水準確保のため、仕様の標準化が重要。仕様書等の制定にあたり、中立的な機関が必要。 ・UI/UXについて、CBDCイメージの統一化、ガイドラインの提示は有用

（※）本欄の記載は、会合参加者のコメントをもとに議論・検討内容を整理（内容は進捗報告書別冊）したものであり、集約された意見や決定事項ではない点に要留意。以下同じ。

欧州・英国の動向と日本での議論の状況②

- システムの共同化について、欧州・英国とも、KYC・AML/CFT・顧客管理等の既存インフラ・枠組みの活用を志向。日本でも共通化のメリットを意識しつつ、共同化する際の範囲等について指摘あり（AML/CFTについても、共同センター等業界横断的な取り組みに際しての責任分界やプライバシーリスク等についての課題の多さについて言及あり）。

	欧州	英国	日本（フォーラムでの議論）
システム共同化	・既存決済インフラ（TARGET Services,SEPA,既存PSP網）との統合・共有を志向。 — 銀行保有のKYC,AML/CFT,顧客管理等を利用。 — 加盟店の、NFC端末、QR決済設備等既存設備を活用。	・英国の既存デジタル決済インフラ（Open Banking,Faster Payments等）との連携を志向。 — 銀行保有のKYC,AML/CFT,顧客サポート等を活用。 — 加盟店のPOSカーネル等の既存設備を活用。	・メリット（効率性・標準化・責任分担）、デメリット（セキュリティリスク、運用の複雑性増大） ・何をどこまで共同化すべきかについてバランスの考慮が必要。
AML/CFT	・銀行、PSPが実施主体。 ・オフライン決済は、現金に近い匿名性をもつため、保有上限、利用限度等を組みあわせたリスクベースの設計。高額取引での強制的なKYC、モニタリング。	・PIP、銀行等が実施主体。 ・オフライン決済の場合は、AML/CFT、利用限度等のリスクバランスを検討。 ・AI駆動の監視や分析の導入を検討。	・身元確認の実施状況に応じた機能提供範囲の変更。 ・高リスク取引のモニタリング。 ・高度な本人認証がハードルとなる高齢者等向けのUIの必要性。 ・共同センターやコンソーシアムによる業界横断的な取り組みは、高度化・効率化に資するが、責任の所在や情報共有に伴うプライバシーリスク等整理すべき課題多い。

欧州・英国の動向と日本での議論の状況③

- 欧州では域内決済基盤を共通化したうえでの相互運用を、英国では標準化したAPIのもとで多様なマネーとの相互運用を志向。
- 日本でも、民間マネーとのブリッジやキャッシュレス市場拡大等への寄与に期待する声あり。他方、システム改修コスト、既存ビジネスモデルへの影響に対する指摘もみられる（既存決済システムの加盟店コストの高さについては、欧州・英国でも問題意識あり）。

	欧州	英国	日本（フォーラムでの議論）
他の決済手段との水平的共存（含むコスト負担）	・デジタルユーロは現金の補完。 ・共通ルール（インターフェース、技術仕様）のもとでの相互運用性を志向。 ・ステーブルコインは金融安定等の観点から、法定通貨のデジタルユーロがアンカーとなるべき。 ・イノベーションプラットフォームでは、トークン化預金、DLT決済が重要テーマ。 ・加盟店負担は現在より増やさない指針	・デジタルポンドは新たな選択肢の提供（multi-money）。民間イノベーションを阻害しないことが重要。 ・トークン化預金のほか、ステーブルコインとの共存も積極的に想定（決済用SCを認可する方針） ・デジタルポンドラボでは、トークン化預金・証券、プログラマブルペイメントとの接続を検証。 ・加盟店取引コスト削減を主眼としたアカウント間支払を例示。	・現金、銀行預金との交換（相互運用）にあたり、ATMや既存勘定系システムの改修は不可避。 — CBDC24/365化か否かも影響。 ・民間マネーとのブリッジ、キャッシュレス市場の拡大等への寄与に期待。 ・CBDCの役割次第で既存ビジネスモデルへの変化も想定されるため、交換・支払いに一定の制限も。 ・コスト担い手・方法は、民間決済ビジネスの取組み等を整理しながら検討する必要（機能により可変、受益者負担が不適當なケースも）

今後のDG3における主な論点（ディスカッションポイント）

- CBDC社会実装時の課題/タスク整理を考える観点から、今後のDG3では、以下の点について、議論の解像度を上げていくことが有用と考えられる。
- 仕様の標準化：
 - ✓ イノベーションを損なわない適切な標準化の範囲・レベルは？（追加サービスの品質保証、AML/CFT等のユーザーサポート、UI/UXのGLの粒度）
 - ✓ 中立機関等が標準化を主導する場合の望ましい形態は？（業界団体等の適切な連携範囲、小売・エンドユーザーへのリーチ、標準化の範囲・レベルに応じた公的関与のグラデーション）
- 必要なシステムインフラと効率的な運用：
 - ✓ エコシステム全体を俯瞰した場合に、CBDC台帳の外側に必要なシステム（顧客管理、AML/CFT等）として、具体的にどのようなものが考えられるか。
 - ✓ それらのシステムのうち、効率性等の観点から既存システムの活用・共有が可能と考えられるものと、新規構築が必要となるものは、現時点でどのように想定されるか。
- 他の決済システムとの共存・コスト負担：
 - ✓ 既存ビジネス・新たな民間マネーとの共存、インフラコスト負担の観点で、必要最低限の機能制限や考慮すべき機能（24/365化等）は？
 - ✓ 既存ビジネスや、ユースケースに応じた決済事業者の収益等を踏まえた、CBDC運営にかかる各種コスト負担に対する考え方。

本日のディスカッションにあたって

- 本日のディスカッションでは、先に示した主要な論点について、各社のお立場やご意見などをコメントいただきたく、よろしくお願いします。
- その際、ユーザーの利用シーン（ユースケース）や、ビジネス上の立ち位置（レイヤー）によって、コメント内容が異なる場合（例えば、仕様標準化の範囲や、コスト負担の考え方等）には、それらの前提を明示あるいは場合分けしていただきつつ、コメントを頂戴できますと幸いです。

利用シーンの例

リアル店舗

都市部

地方部

大手小売

中小小売

EC

G2P/P2G

個人間送金

.....